

大社 4強ならず

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
神村学園	0	1	0	1	1	0	4	1	0	8
大社	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2



神村学園に敗れ、引き揚げる大社ナイン＝甲子園

熱狂と感動 刻んだ夏「3勝」

第106回全国高校野球選手権大会第12日は19日、兵庫県西宮市の甲子園球場で準々決勝があり、島根代表の大社は神村学園（鹿児島）に2―8で敗れた。ナインは一致団結し、最後までチームのために戦う「大社魂」を披露。多くの人に感動を与え、凛として甲子園を後にした。

大社は初回到四球で出塁した1番藤原佑が二盗、1死三塁で石原勇翔の内野ゴロで先制。1点を追う四回は高橋蒼空の中前打などで無死一、二塁とし、相手の悪送球で同点に追い付いた。六回までは互角の試合を演じたが、七回に4失点した。

甲子園で初登板の岸恒介、山本佳汰が継投。3試合を完投してきたエースの馬庭優太が五回途中からマウンドに上がったが、七回に相手打線につかまった。

1回戦で春の選抜大会準優勝校の報徳学園（兵庫）を3―1で破って勢いに乗ると、2回戦は創成館（長崎）を延長十回タイブレークの末、5―4で下した。

早稲田実業（西東京）との3回戦は2試合連続の延長タイブレークとなり、十一回に3―2とサヨナラ勝ちし、93年ぶりの8強進出を果たした。

チーム一丸で強豪校を次々と破る快進撃を見せたナインには、スタンドから惜しめない拍手が送られた。



発行所
山陰中央新報社

松江市殿町383
郵便番号 690-8668
電話 総合案内 0852(32)3440



山陰中央新報の購読お申し込みは
☎0120-49-2550
受付時間／9:30～17:30（日曜、祝日除く）